

一口メモ

フラッシュグルコースモニタリング (FGM) では、腹部や腕に500円硬貨大のセンサーを装着し、手のひら大の小型の読み取り機を使って測る。従来の指先などに針を刺して測る方法では分からなかった血糖値の変動が14日間連続して記録できるようになった。注射剤で治療中の糖尿病患者に保険適用されている。

知りたい!
治療の最前線

糖尿病診療

◇8

糖尿病は生まれてすぐの赤ちゃんから100歳を越える方まで、あらゆる世代に起こります。糖尿病ほど生活を大きく反映する病気はありません。人それぞれが導く生き方をし、年とともに考え方も変わることさえ思えば、まさに「日々是好日」の精神で、患者さん一人一人に向き合う診療が必要になります。

患者の生活に向き合う



生活指導に使うスマートフォンアプリ。歩数計機能などが付き、生活習慣改善につなげる



八木 邦公
富山大糖尿病センター
副センター長・診療教授

加齢により全身の筋力が弱まる状態を「サルコペニア」と言いますが、高齢の糖尿病患者はより筋肉量が減少することが知られています。最近の研究では、おなかにたまった脂肪が大事な筋肉を溶かして、若いときに太っていた人は、年を取ると「サルコペニア肥満（筋肉が減り脂肪が増える状態）」になってしまっている状態になってしまっています。サルコペニアは「フレイル（虚弱状態）」の原因にもなり、寝たきりになる恐れがあります。

筋肉量維持

富山大附属病院の糖尿病センターでは、体組成計を使っ

あらゆる世代に対応

て筋肉量を正確に測定することで、このようなりスクを早期に発見し、筋肉量を保つような高タンパクの食事や運動の指導を可能にします。腎臓が悪い場合、タンパク質を取ると腎臓の働きがさらに悪化してしまいます。そうした方は通常のウォーキングに加え、て筋肉を鍛える運動などが必要になります。

糖尿病のお子さんの多くはインスリンの出ない小児1型糖尿病です。血糖を管理するだけではなく、その子が将来自立できるように、家族を含

アプリで指導

山大特命教授) を行っています。当院には糖尿病患者を支援する専門知識や技術を持ったスタッフが大勢います。かねてから糖尿病発症前から関わりたいという思いがありました。そこで当センターでは8月から、糖尿病になる前の「メタボリック症候群」の患者の生活指導（特定保険指導）を始めることになりました。

指導では、肥満症やメタボの患者さんが生活習慣を改善するためのアシストとして、ITベンチャー企業「キューアコード」（富山市）が作成したスマートフォンアプリを使う予定です。歩行習慣を促し、定着させる従来の機能に、食事内容を記録・解析する機能が加わることになっており、当センターも機能向上に協力していきます。

めて支えていかなければなりません。当センターでは、お子さんのための外来を設けています。持続的にインスリンを注入する「インスリンポンプ療法」を行うだけでなく、保育園や学校の先生との連絡も密に取り、健やかな成長を助けます。

1型糖尿病の根本原因の治療を目的とした先進的医療の開発も行っています。1型は、「自己免疫」を主因として、臓器が壊れていく疾患です。発症間もない1型の成人患者を対象に、薬剤を用いて自己免疫を制御し、自己インスリン分泌機能の維持を目的とした「免疫修飾療法」の臨床試験（研究代表者・中條大輔富

このほか当センターの取り組みには、高度肥満（BMI 35以上）のための内科・外科治療、血糖が変動しやすい患者への最新型持続血糖測定装置（FGM IIフラッシュグルコースモニタリング）を使った管理などがあります。私たちの最終的な目標は、糖尿病患者さんが元気で長生きできるようになることです。

◇ 次回は23日に掲載します。